

ようこそ所長室へ

～市民に開かれた「みなとまちづくり」～ 新年のご挨拶

平成30年は、穏やかな天候に恵まれ新年を迎えることができ、お喜び申し上げます。

『ふじのくに田子の浦みなと公園』から拝む“初日の出”は、駿河湾を隔てた伊豆半島から昇る太陽の美しさだけでなく、これと前後して、山頂から赤く染まり次第に白妙の富士山に装いを変える、時間とともに変化する360°の空間グラデーション[gradation]の神秘的な美しさから人気スポットになり、年始は4,200人ももの市民の皆さんで賑わいました。

年々増加する初日の出客は、『みなと公園』の自然が織り成すロケーションだけでなく、「田子の浦漁協一本釣組合」による漁船パレードや、公園管理を支える「NPOみなと・まち育て田子浦」皆さんのご尽力の賜物で、深く感謝しています。そしてこれらのことは、地域の皆さんとの協働により推進してきた「みなとまちづくり」の取組みの成果の現れと職員一同喜んでおります。

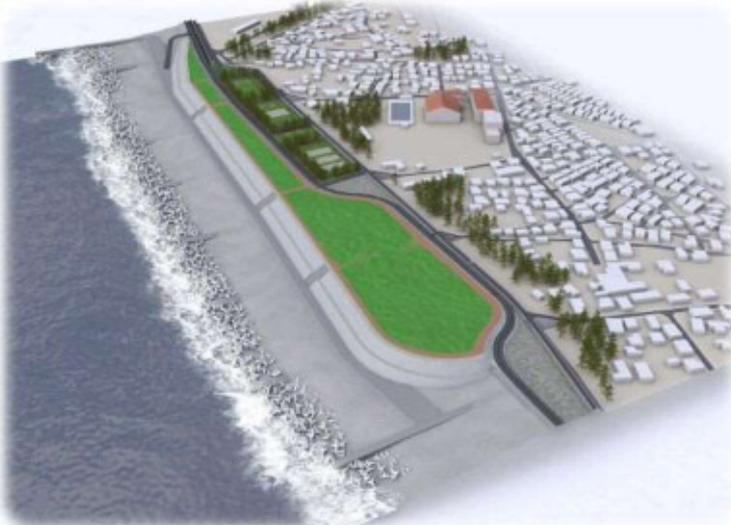
『ふじのくに田子の浦みなと公園』からの“初日の出”と“漁船パレード”
～「NPOみなと・まち育て田子浦」提供写真を加工～



平成28年4月の開港50周年を契機に新たな発展を目指す田子の浦港ですが、製造業は、産業構造のグローバル化の進展から技術の高度化や工程の効率化を追求しており、本港の使命は、エネルギーや原材料の調達コストの削減を通じて、製造業を応援することが第一と考えています。このためには、水深12mの中央埠頭国際物流ターミナルを安全・安心に使うことができるよう、航路をはじめとする港湾施設の保全に職員が一丸となって取り組んでまいります。もう一つの展開ですが、かつての機能本位の工業港やヘドロ公害のイメージを拭い去る取組みとして、前段で述べました市民に開かれた「みなとまちづくり」、すなわち港を活用した地域振興を推進しています。

本年2月には、『ふじのくに田子の浦みなと公園』のシンボルタワーが完成し、港湾環境整備事業による一連施設整備が完了します。一方、元吉原地区の鈴川海岸における「躍動とスポーツ」をテーマとする緑地には、本年4月には一部を残して供用を開始する予定です。これらの施設が、市民の皆さんに親しまれ、そして地域振興のために活用され、富士市が目指す“田子の浦港振興ビジョン”の「にぎわいづくり」を後押しできることを期待しています。

平成30年4月供用予定の元吉原鈴川海岸緑地完成予想図



平成30年1月
静岡県田子の浦港管理事務所
うめぼら ただし
所長 梅原 正

田子の浦港は、製造業の
“持続可能な循環型経済活動”を支援します。

Port of Tagonoura